

4月18日(火) 保健医療・HIV/AIDS 関連団体交流会

@ J I C A地球広場セミナールーム 302

参加者：事務局3名+加盟団体から

司会進行：安井功

【プログラム】

1. はじめに
2. 情報共有 (YDPJN、wAds2005、各団体)
3. 作業
4. これからの考える
5. 2次会

19:00 開始・・・予定だったが、人待ちなのでプログラム確認 BY やっくん
2次会についても説明

19:15 開始？

【自己紹介(名前、所属、マイブーム)】

- ・安井功 (ADEO&YDPJN、東大、人に会ったら手当たり次第卒論相談)
- ・後藤智子(YDPJN、緑茶とローズヒップ粉末)
- ・森本真輔 (YDPJN、東大、単位計算と湯葉)
- ・アデオジャパンから1名
- ・HAATAS から4名
- ・国際医学生連盟日本から4名 (うち1名筑波大TIMSAから)
- ・医療系学生による国際協力隊 euphoria から2名

【趣旨説明】

- ・お互いを知り合う
- ・今後、何かしたい→YDPについて知り、考えてもらう

【専門部会とは】

- ・全部が集まると枠組みが広すぎるから、分野ごとに集まってプラットフォームを作り、事業をやりやすくする
- ・そのような小さな枠組みが専門部会

【YDPJNとは】担当：森本

48団体のネットワーク、事務局員30名

みんな、自団体がネットワークに所属していることを知っている(すごい!)

歴史：パリ(03)とサラエヴォ(04)でのYDPの会議

→サラエボ会議がきっかけで日本のユースネットワーク構築への動き

→YDP2005というイベント→設立宣言

加盟団体は多種多様で北海道から九州まで

実は・・・総会があるぞ!(6月24-25日@東京)

理念：ユースが平和で豊かな世界を作る主体となるのだ!

→ユースをもっとエンパワーメントし、パートナーとなっていく必要を世銀が認識

YDPの目的：発信、ナレッジ、協働の3つのプラットフォーム

事業部：いろいろやっていますよ

YDPJ2006：総会で一年間のこととか、いろいろと決めます。来てください。

【IFMSA①】

- ・総会は意見交換の場
- ・ヨーロッパはプロジェクトをしているし、知名度も高く、寄付とか得やすい
- ・日本ではできて5年くらいになるけど、今後の知名度拡大とかが課題。規模は大きく、44の大学に分かれている
- ・各部門に分かれている
- ・MDGsに関しては、日本で意識されにくい(結核やマラリアとか)

【IFMSA②インドネシアの緊急支援 Action Plan】

- ・インターナショナルのプロジェクト
- ・アジアの自然災害↑ だけど医学教育の中に災害支援とかを学んだりコミットする場が少ない
→IFMSAが提供しよう
- ・災害マネジメントの専門家を招いたワークショップなどを行っている

【wAds2005】担当：稲垣

趣旨：個々のイベントを、一つのキャンペーンとしてシリーズ化して外に魅せていくことでより大きなインパクトを与える試み

内容：個々のイベント+協働イベント

やり方：HPやロゴの共有、レッドバンド

主催：wAds2005実行委員会

既存のものを活かしつつ、見せ方を新しくしたイベント

YDPは広報や団体間のコミュニケーションとかをした(らしい)

【euphoria】

国際協力を考える医療系学生ネットワークを作ろう

国内50%+海外50%の活動を目指す

今はインドネシアの機関と組み、ワークキャンプが主(売春街、ストリートチルドレン、シンポ)

今年はAIDSに注力する予定で、他団体の試みとかを聞きたい

【作業】

Q あなたにとってやりたいことは何ですか?(個人的に)

→ 書く → 2つのグループに分かれてシェア

G1

時系列別

①ワークショップ企画・勉強回を通し共通の理念作りと信頼醸成

②イベント開催→発信

③情報共有・フィールドワークなど

④情報をさらに集めて①へ

①-④をまとめる枠組みとしての事務局

G2

戦略

プロジェクト

バックオフィス

ユース全体

調査

大きなプロジェクト
(大規模な予算)

広報
プレスリリース
アカウントビリティ
HP

ネットワークを
利用したイベント
ネットワーキング
団体間の情報共有

現場を知る

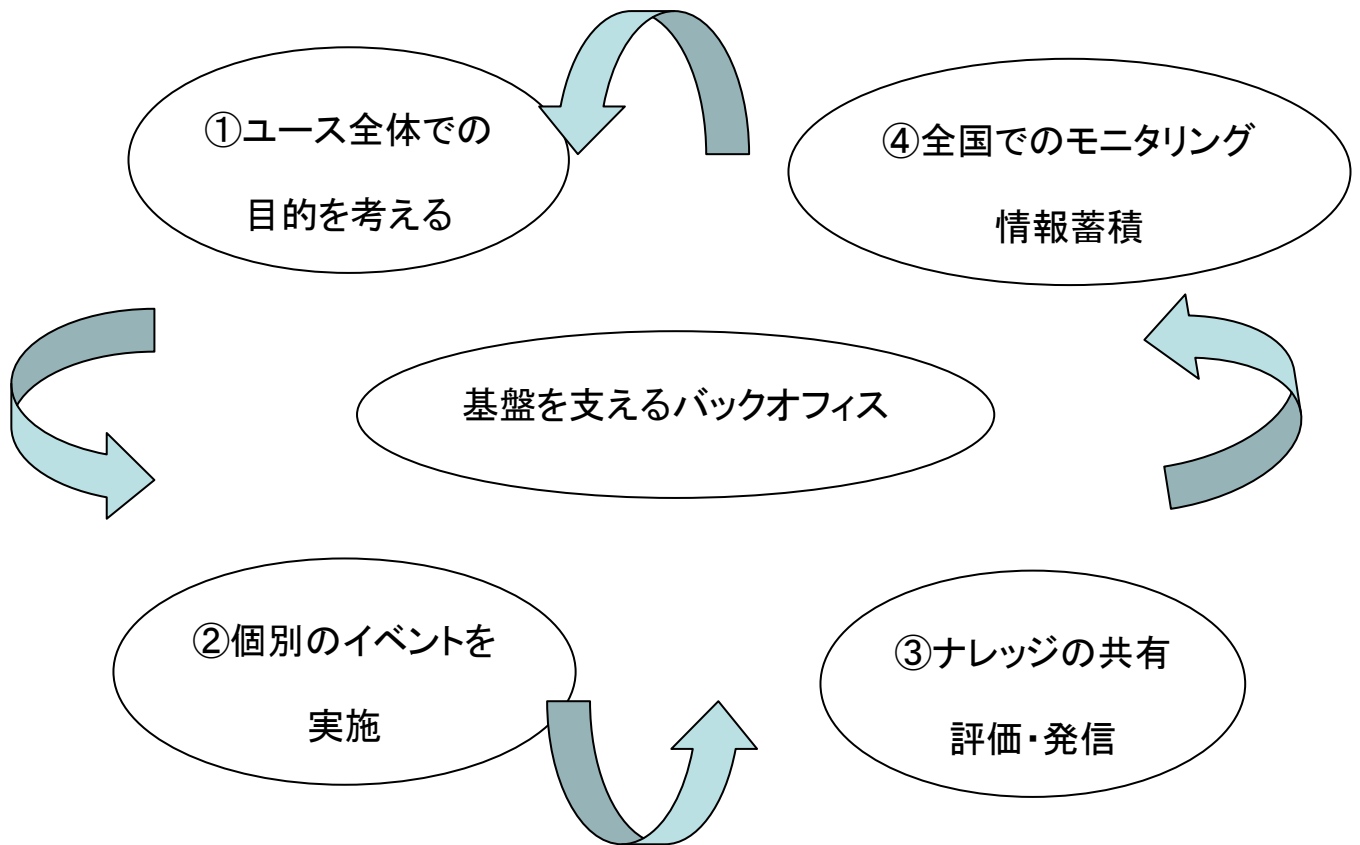
プロジェクトに
対する評価
システムの確立

学校・企業などとの
タイアップ企画
個別の事業

知識の蓄積

個別

スキルアップ



【話し合いたいこと・アイディア】

- ・国際保健として・・・勉強したい？
- ・事務局としては情報を伝えたり集めたりするためのツール
- ・つないでいるだけなら意味は無い(∵個々の団体はしっかりしきれていない)
 - YDPJN 事務局がプロデュースをするとこまでやっていいのでは？
- ・それぞれの団体は現場で動く部署と考え、個々の活動に関してプロから学んでノウハウを得たい。その窓口としての YDP。あるいは、加盟団体の活動の質をあげるために YDPJN が何を提供できるのかを考えて欲しい。ノウハウ提供は加盟団体にとって加盟のメリットになる。お互いの団体のノウハウも共有できる。現場を支える団体として、YDP は現場の活動を知った上で加盟団体に提供できるものと考えてほしい。
- ・現場での働きとネットワークの両者をバランスよく！

【今後の枠組みをどう次につなげるか】

- ・誰かがリーダーシップを取っていく必要がある。意思決定方法はどうなるのか？予算は？
- ・再度、やりたいかどうか？→集まるべき
- ・役割分担とか組織作りはやるべき
- ・2006年にこういうことをやっていきたい、ということ共有して、認められないと、次の役割分担とかはできない。総会に向けて、提言していった方がいい。意思決定とかじゃなくて。やりたいことがベースの方がいいんじゃないか？
- ・YDP に積極的にコミットしたいという団体ばかりでないで、各団体のスタンスとかを共有していったほうがいいのでは？
- ・総会は個別のイベントに関する意思決定の場というわけではない。発信の場としては使えるかも。